

- 三菱自動車、「パジェロ」の右側ロアアームに不具合があるとしてリコール  
16年10月26日～18年2月26日に生産した1506台。このほか、交換修理用部品として出荷し、組付けられた車両が特定できないものなど64台の対象。フロントサスペンションの右側ロアアームにおいて、溶接工程での部品の固定が不十分な為、溶接位置がずれ、強度が不十分なものがあることが判明。制動時の負荷により溶接部位がはがれ、走行が不安定になる恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「エアロスター」のエンジンコントロールユニット(EGU)の制御プログラムに不具合があるとしてリコール  
13年5月29日～17年8月22日に生産した2146台  
EGUの制御プログラムが不適切な為、最大燃焼圧力がコンロッドの許容限度を超える場合がある。その為、そのままの状態で使用を続けると、コンロッドに亀裂が生じ、最悪の場合、コンロッドが破損して走行不能及び火災に至る恐れがある。
- UDトラックス、「クオン」のVロッド、プレヒータリレー、フロントおよびインターアクスルプロペラシャフトに不具合があるとしてリコール  
17年4月28日～19年12月25日に生産した合計1万8432台  
重ね板ばね式緩衝装置付大型トラックのVロッドについては、センタージョイント部ボールスリーブの表面加工が不適切な為、ボールスリーブとボールレース間の摩擦抵抗が大きくなるものがある。その為、段差乗り越えなどの大きな変動等を繰り返し受けると、ボールレースが摩耗し、センタージョイントのハウジングが破損して、最悪の場合、走行安定性が損なわれる恐れがある。プレヒータリレーについては、エンジン冷間時に始動性を補助する吸入空気予熱装置にて、その防水・防錆加工時の脱泡が不十分な為、希に気泡が回路基板上に残存し、温度上昇によって気泡内で微少なガスが発生することがある。その為、ガスによる化学変化によりリレー回路がショートし、常時通電状態となり、警告が表示され、最悪の場合、プレヒータリレーが過熱して焼損、火災に至る恐れがある。フロントおよびインターアクスルプロペラシャフトについては、ユニバーサルジョイントの製造管理が不適切な為、ベアリングカップ内にスラストワッシャーが組付けられていないものがある。その為、ベアリングカップの遊動でシールが損傷し、潤滑不足でベアリングが焼付き、ユニバーサルジョイント部が破損して、最悪の場合、プロペラシャフトが脱落して走行不能となる恐れがある。
- トヨタ自動車、「ヤリス」のブレーキ制御コンピュータに不具合があるとしてリコール  
19年12月11日～20年4月21日に生産した2万7622台  
車両安定制御機能(ビークルスタビリティコントロールシステム:VSC)にて、制御プログラムが不適切な為、停車中のアイドル時の振動を二輪駆動車用スピードセンサが車速と誤検出して、異常判定することがあるというもの。その為、警告灯が点灯し、VSC等が作動しなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、クロスオーバーSUV「RAV4」のロアアームに不具合があるとしてリコール  
19年9月25日～同年10月26日に生産した3409台  
前輪緩衝装置にて、材料製造工程が不適切な為、ロアアームに亀裂が入っているものがある。その為、そのまま使用を続けると亀裂が進展し、最悪の場合、ロアアームが破断して、走行安定性を損なう恐れがある。
- アウディジャパン、アウディ「A1」等計8車種の7速ストロニックに不具合があるとしてリコール  
08年1月21日～14年8月15日に輸入した3433台  
今回のリコールは2019年9月19日付けで届出したものだが、製造ロットの確認方法に不備があった為、再度確認を行うことを目的に届出するもの。7速ストロニック型自動変速機のメカトロニックにて、アッパーハウジングのねじ切り加工が不適切な為、耐久性が不足しているものがある。その為、アキウムレーターの継続的な油圧変化による疲労の蓄積により、アッパーハウジングに亀裂が発生し、油圧が低下。最悪の場合、駆動力が伝達されず走行できなくなる恐れがある。
- ホンダ、「CR-V」「インサイト」「シビック」「レジェンド」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール  
18年6月4日～19年6月28日に生産した1万2427台  
低圧燃料ポンプのインペラ(樹脂製羽根車)にて、成形条件が不適切な為、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。その為、インペラがポンプカバーと接触して燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。